

ヒーローの責任

登場人物表

新田明（22）（25）（27）（30）

元プロ野球選手

南野光枝（22）（30）ダンプ運転手

天谷貞治（30）新田の同級生

新田房子（57）新田の母親

南野翔（10）光枝の息子

野坂輝一（40）元プロ野球選手

天谷恭子（26）天谷の妻

天谷理恵（4）天谷の娘

梶武史（22）（27）スワローズ正捕手

ユキ（23）（27）新田の彼女

柴田康介（25）天谷建設社員

金井純子（48）スナックママ

球団職員（45）

上司（50）房子の上司

青田部長（55）川上建設社員

ニュースキャスター

新田明（16）高校時代の新田

天谷 貞治（16） 高校時代の天谷

南野 翔（2）

社員 A 京田運輸社員

社員 B 京田運輸社員

ホステス A クラブ店員

ホステス B //

ホステス C //

運転手 A タクシー運転手

運転手 B //

同僚 A 房子の同僚

同僚 B //

解説 声のみ

アナウンサー

配達員

会社員 声のみ

少女 声のみ

男性 声のみ

少年 声のみ

○ スタジアム・外観（夜）

照明で輝くスタジアム。

歓声。

○ 同・グラウンド（夜）

マウンド上でホークスのバッターと対峙する新田明（25）。スワローズのユニホーム。背中のネーム“N I T T A”。大歓声。キャッチャーの梶武史（22）のサインに頷く新田。

○ 同・スコアボード（夜）

九回裏。一点差で勝っているスワローズ。ツーアウト、ツーストライク。

○ 同・グラウンド（夜）

投球態勢に入り、ボールを投げる新田。空振りするバッター。ガッツポーズの新田に駆け寄る梶と他の選手達。大歓声。

○スポーツ新聞

“スワローズ日本一”“新田MVP”の
見出しと新田の写真。

○スタジアム・グラウンド（夜）

投げる新田明（26）。
ピッチャーライナーを取り、ガッツポ
ーズ。

○スポーツ新聞

“新田二十勝”“二年連続MVP”とい
う見出しと、新田の写真。

○繁華街（夜）

高級スーツにサングラスという出で立
ちでユキ（23）と高級スポーツカー
に乗り込もうとする新田。
駆け寄ってきた雑誌記者が写真を撮る。
フラッシュに顔を背ける新田。

○スポーツ新聞

“新田熱愛発覚”“相手はモデルのユキ”

という見出しと、新田とユキのツーショット写真。

○記者会見場・壇上

記者会見を受けるスーツ姿の新田。無数のフラッシュ。

新田「来年、メジャーに挑戦したいと考えております」

無数のフラッシュに照らされる新田。

○スポーツ新聞

“新田メジャー挑戦表明”という見出しと、記者会見をする新田の写真。

○スタジアム・グラウンド（夜）

投げる新田明（27）。

ホームランを打たれ、うなだれる新田。

○スポーツ新聞

“新田またKO”という見出しと、うなだれる新田の写真。

× ×

“新田右肩故障”“今季絶望”という見出しと、アイシングをする新田の写真。

× ×

“新田右肩手術へ”という見出しとうなだれる新田の写真。

○球団事務所・外観

タイトル「三年後」

○同・応接室前

木目調のドア。

○同・応接室

デスクに座る球団職員（45）と対面して立つスーツ姿の新田明（30）。

新田「・・・あの、もう一度いいですか？」

新田を一瞥する球団職員。

球団職員「来年、ウチは君とは契約しない」

呆然とする新田。

球団職員「これ、トライアウトの説明が書いてある書類だから、受ける意思があるなら、目を通しておいで」

新田に封筒を手渡す球団職員。

新田「え、トライアウトって来月ですよね？

ちよつとまだ投げられる状態では・・・」

球団職員「いや、これはあくまで自分の意思で受けるものだから、投げられないなら無理に受けなくても大丈夫」

新田「いや、その、そういう意味ではなくて・・・」

球団職員「他に質問が？」

呆然とする新田。

○同・応接室前

部屋から出てくる新田。手に持った封筒を見つめる。

封筒を握りつぶし、ゴミ箱に捨て、出

入り口に向かう新田。

○スポーツ新聞

端に小さく“スワローズ新田が戦力外”
という記事。

○天谷家・外観（朝）

二階建ての一軒家。

○同・居間（朝）

ソファに座り、新聞を読もうとする天
谷貞治（30）に天谷理恵（4）がじ
やれついている。

エプロン姿の天谷恭子（26）が近付
いてくる。

恭子「理恵ちゃん。お父さん新聞読んでるん
だから邪魔しないの」

理恵「はい」

天谷から離れる理恵。

新聞を読む天谷。新田の戦力外記事を

凝視する。

棚に飾られた集合写真。

桜高校のユニホームを着た部員達の中に新田と天谷がいる。

○京田運輸・外観（朝）

二階建ての事務所“京田運輸”という看板。広い駐車場があり、数台の大型ダンプが停まっている。

○同・事務所内（朝）

数台のデスクの並んだ事務所。数名の社員がテレビを観たりしながら、くつろいでいる。

出社してくる南野光枝（30）。

光枝「おはようございます」

社員A「おはよう。光枝ちゃん、今日は天谷建設の現場にお願いね」

光枝「了解です」

ニュースキャスターの声「スワローズの新田

選手が戦力外通告を受けました」

新田の戦力外のニュースが流れる。

社員 B 「新田って桜高校出身のдар。肩痛めてから全然見なかったけど、遂にクビか」

社員 A 「我が地元の大スターだったな」

2 人の言葉に反応し、テレビを見つめる光枝。

○マンション・外観

高級マンション。

○新田の部屋・リビング

広い室内。大きなソファやテレビ。

棚に置かれた数点のトロフィーや盾。

ソファで対面して座る新田とユキ（27）。

ユキ 「クビ？」

ユキと目を合わせずに頷く新田。

ユキ 「怪我さえ治れば、大丈夫だって言っ
なかつた？」

新田「分かってないんだよ。上の連中は」

ため息をつくユキ。

ユキ「これからどうするの？」

新田「・・・」

頭を抑えるユキ。

ユキ「無職とか、マジでありえないから」

新田「・・・」

立ち上がり、帰り支度をするユキを、
不満げな表情で見る新田。

ユキ「私、先が見えない人とは一緒にいられないから。何とかしてよね」

部屋を出て行くユキ。

しかめっ面の新田。

○球団用練習球場・外観

○同・グラウンド

練習を行うスワローズの選手達。

外野でランニングを行う新田。

× × ×

グローブを持ち、梶武史（27）に近
付く新田。

新田「梶、ピッチングいいか？」

梶「あ、はい」

移動する二人。

○同・ブルペン

軽くキャッチボールをする新田と梶。

新田「じゃあ座ってくれるか」

心配そうな表情の梶。

梶「大丈夫ですか？」

頷く新田。心配そうな表情で、腰を落
とす梶。

振りかぶる新田。構える梶。

ボールを投げようとする新田の表情が

苦痛に歪む。

投げたボールが点々と転がっていく。

その場で肩を抑え、うずくまる新田。

新田に駆け寄る梶。

梶「無理しないでください」

新田「うるさいよ！」

立ち上がり、ブルペンを出て行く新田。

呆れた表情で見送る梶。

○マンション・外観（夜）

○同・新田の部屋（夜）

ソファで仰向けになる新田。

携帯の着信音。

ゆっくり起き上がり、電話に出る新田。

新田「はい、新田です」

野坂の声「よう、久しぶりだな」

新田「お久しぶりです。野坂さん」

野坂の声「今から会わないか？」

戸惑いの表情の新田。

○クラブ『ZAGGIN』・外観（夜）

“クラブZAGGIN”と表記された看板が光っている。

○同・店内（夜）

ソファに座り、数人のホステスと飲む
新田と野坂輝一（40）。

ホステスA「プロ野球選手なんですか」

ホステスB「かっこいい」

楽しそうに飲む新田と野坂。

野坂「こいつは日本のエースだったんだぞ」

ホステスC「日本のエース。凄い」

上機嫌で飲む新田。

新田「いやいや、野坂さんだって、甲子園の

アイドルから、鳴り物入りでプロ野球に入

って、あのジャイアンツ黄金時代を支えた

名選手だったじゃないですか」

野坂「まあ昔の話だ」

新田「その一流の選手が、今や一流の経営者

っていうんだから。これまた凄いじゃない

ですか。そういえば、またお店出したんで

すよね」

野坂「ん？ ああ、まあな」

ぎこちなく笑う野坂。

新田「僕も野坂さんみたいに才能があればな」

野坂「何言ってるんだよ。お前には誰にも負けない才能があるだろ」

表情を曇らせる新田。

新田「この3年間眠ったままですけどね・・・」

新田を見つめる野坂。

野坂「実は、お前に折り入って話があるんだ」

新田「はい？」

野坂「ちよつと、2人だけにしてくれるか」

ホステス達が退席するのを待ち、真剣な表情で新田を見る野坂。

野坂「お前、まだ投げたいか？」

戸惑いの表情の新田。

新田「・・・はい」

野坂「実はアメリカにお前みたいなピッチャー

の肩を何度も治してきた医者がいる」

驚きの表情に変わる新田。

野坂「その医者の治療を受けられるって言うたらどうする？」

新田「も、もちろん受けたいです！　アメリカ

カに行けばいいんですか？」

野坂に詰め寄る新田。

野坂「落ち着け」

野坂になだめられ、座り直す新田。

野坂「その医者の手術には保険が効かない。

だから全部自腹だ。それに加えて術後のリ

ハビリも必要だから、かなり高額になる」

新田「・・・いくら位なんですか？」

野坂「800万」

新田「800万・・・」

深刻な表情の新田。

野坂「額が額だから、すぐに返事する必要は

ない。ただお前の肩を治せる可能性は増す」

深刻な表情の新田を、冷静な表情で見

つめる野坂。

○マンション・外観（夜）

○新田の部屋・リビング（夜）

ソファに仰向けになる新田。

起き上がったって棚の前に移動し、引き出しを開ける新田。

通帳を取り出し、中を見る。

新田「800万・・・」

通帳を戻し、深刻な表情でひとつ息を

吐き、ソファに座る新田。携帯からユ

キに電話を掛ける。

コール音の後、留守電に切り替わる。

電話を切り、ソファに深く座り、壁に

掛かった時計を見る新田。

22時前後を示す時計。

立ち上がり、コートを羽織って部屋を

出て行く新田。

○ユキのマンション・外観（夜）

高級なマンション。

○同・出入口（夜）

オートロックの出入口。新田が立っている。

ユキの部屋のチャイムを鳴らす新田。
返答がなく、携帯でユキに電話する新田。
留守電。
悔しげな表情の新田。

○同・前（夜）

帰ろうとする新田の視線の先に停まる
タクシー。その中から出てくるユキ。
顔に喜色を浮かべる新田。

ユキがタクシーの中にいる人物に話し
掛けている。

タクシーの車内に目を凝らす新田。

梶が顔を出し、ユキとキスをする。

驚く新田。

ドアを閉め、走り出すタクシー。

マンションに向かい、振り返るユキ。

新田を見つけ驚くユキ。

ユキに近付く新田。

新田「今の梶だよな」

ユキ「・・・」

ユキの肩を掴む新田。

新田「どういことだよ」

顔を背けていたが、意を決したように

新田を見るユキ。

ユキ「見ての通りよ。私、梶さんとそういう

関係なの」

啞然とする新田。

新田「お前、ふざけるな」

ユキ「梶さん、年棒一億だって」

新田「・・・」

ユキ「クビになったあなたとじゃ、比べるま

でもないでしょ」

新田「・・・ユキ」

ユキ「さよなら。もう会いに来ないで」

新田の手を振り払い、マンションに向

かって足早に歩いていくユキ。

その後ろ姿を呆然と見る新田。

○曇り空

雨雲に覆われた空。

ポツポツと雨が降り出す。

新田の声「・・・もしもし、新田です。さつき800万振り込みました」

○マンション・前

新田のマンション。シトシトと降る雨。
リサイクル業者のトラックが停まっ
ている。

野坂の声「そうか。後は任せてくれ。進展あり次第連絡するから」

○新田の部屋・リビング

家具を選定するリサイクル業者数人を、
離れた場所で見ると新田。

× × ×
家具が無くなった部屋。

○新田の部屋・玄関

リサイクル業者が電卓を弾き、新田に
見せる。頷く新田。

バッグから現金を取り出して数え、封筒に入れて新田に渡すりサイクル業者。会釈をする新田。申し訳なさそうに、油性ペンを取り出すりサイクル業者。それに気付き、ペンを受け取る新田。新田に背中を向け、上着を脱いでシャツを出すりサイクル業者。戸惑いながらも、シャツにサインをする新田。深々と頭を下げ、部屋を出て行くりサイクル業者。

○新田の部屋・リビング

何も無くなった部屋を眺める新田。

○新田の部屋・前

マンションの管理業者に鍵を渡す新田。

○マンション・前

シトシト降りの雨の中、停まっている
迎車表示のタクシーに乗り込む新田。
走り出すタクシー。

○タクシー・車内

後部座席に座り、窓の外を見る新田。
雨の中、流れていく都会の景色。

○雨の中を走るタクシー

新田の声「もしもし・・・母さん。荷物は着
いた？ うん・・・部屋に運んでおいて。
うん・・・夜には着くよ」

○駅・外観（夕）

シトシト降りの雨。

○同・ホーム（夕）

大勢の客。新幹線が入ってくる。
新幹線に乗り込む客の中に新田がいる。

○雨の中を走る新幹線（夕）

○新幹線・車内（夕）

窓際の席で、外の景色を眺める新田。
窓から見える田舎の景色。

○田舎の駅・ホーム（夜）

停まった新幹線。乗り降りする客達。

○同・前（夜）

人がまばらな駅前で、手を挙げタクシーを呼ぶ新田。

停まったタクシーに乗り込む新田。
走り出すタクシー。

○タクシー・車内（夜）

後部座席に座る新田。

新田を気にする運転手A。

運転手A「あ・・・もしかして新田選手で
すか？」

新田「あ、はい。そうです」

運転手A「あーやっぱり。どこかで見た顔だ
と思った」

愛想笑いをする新田。

○新田家・前（夜）

二階建ての一軒家。玄関の前に軽自動車
が停まっている。表札に“新田”。
タクシーが停まり、新田を降ろして走
り出す。

実家を見据え、玄関に向かう新田。

○同・玄関（夜）

玄関戸が開き、新田が入ってくる。
慌ただしく近付いてくる足音。

ホールに出てくる新田房子（57）。

房子「おかえり。寒かったですよ。お風呂沸
いてるから、入っちゃいなさい」

頷く新田。

房子「今、夕飯の支度してるから」

慌ただしく家の中に戻っていく房子。

玄関を見回す新田。

新田「ただいま」

そう呟き、家の中へ入る。

○同・浴室（夜）

湯船に浸かる新田。

房子の声「明。夕飯出来たからね」

新田「分かった」

湯船から出る新田。

○同・居間（夜）

広々とした和室。壁にはプロ野球で活

躍している新田の姿を切り取ったパネ

ル写真が飾られ、棚にはトロフィーや

盾が並べられている。

湯上りの新田が寝巻き姿で入ってくる。

棚のトロフィー等を見つめる新田。

夕飯を運んでくる房子。

新田「ここに飾ったんだ」

房子「急に送ってくるから、どうしようかと思つたのよ」

新田「物置に置いておけばいいのに」

房子「駄目よ。うちの家宝なんだから」

そう言いながら、夕飯を座卓に並べる。

表情を曇らせる新田。

房子「はい。準備オツケー」

座卓に並べられた豪勢な夕飯と、数本のビール瓶。

向かい合つて座る新田と房子。

ビール瓶を開け、新田のグラスに注いだ後、自分のグラスにも注ぐ房子。

房子「じゃあ」

グラスを掲げる房子に合わせ、新田も掲げる。

房子「お疲れ様」

乾杯する二人。美味しそうにビールを飲む房子。新田も一口飲む。

房子「いっぱい食べなさい」

食べ始める新田。

×

×

×

食事をする新田と房子。

房子「明、何年目だっけ？」

新田「何が？」

房子「あんたがプロに入って」

新田「ああ、十二年かな」

房子「十二年か・・・プロで十二年って、な

かないないのよね？」

新田「まあ、一軍レベルじゃないと無理かな」

棚のトロフィー等を見る房子。

房子「あんた頑張ったわよね。お父さんがよ

く言ってたわ。本当に俺の子かって」

新田「もう3年か」

そう言って感慨深い表情をする。

○同・仏間（夜）

仏壇に飾られた新田の父親の遺影。

○同・居間（夜）

食事をする新田と房子。

房子「あの時はありがとうね。明の手術もあつたのに、お父さんの治療代まで負担してくれて」

新田「当然のことだよ」

房子「おかげで最高の治療を受けられたわ」

真剣な表情に変わる新田。

新田「母さん、実はさ・・・」

房子「ん？」

新田「俺、もう一度手術受けようと思ってる」

房子「・・・手術？」

新田「アメリカのお医者さん」

房子「その人の手術を受ければ治るの？」

頷く新田。

房子「良かったじゃない」

新田「うん。それでさ・・・来年のトライア

ウトを受けようと思ってるんだけど・・・」

房子「それまで面倒見ればいいんでしょ」

驚きの表情の新田。

房子「頑張りなさい」

新田「・・・ごめん」

房子「当然のことよ」

苦笑いの新田。

○同・新田の部屋（夜）

十畳程の部屋。勉強机とベッドが置かれ、本棚には漫画が並ぶ。壁には高校野球時代の集合写真が飾られている。ベッドに座り、肩を触る新田。

○同・仏間（夜）

仏壇の前に座る房子。

房子「あの子を守ってあげてくださいね」

新田の父親の遺影。

○グラウンド

大きなグラウンド。バックネットが両端にあり、野球の試合が二面で行われる造り。

片面で野球の練習を行う人達。その中に天谷もいる。グラウンドの端でキャッ

チボールをしている光枝と南野翔（10）。二人の顔は分らない位遠い。グラウンドに入ってくる新田。準備運動を行い、グラウンドの大外を早いピッチで走り始める。バッターの打ったボールを外野手の柴田康介（25）が追い掛ける。グラウンドを転がっていくボール。転がってきたボールを拾う新田。

柴田 「すいませーん」

柴田と新田の距離は二十メートル程。ボールを見つめる新田。グローブを掲げる柴田。その様子を、ショートの位置から天谷が見ている。下投げでボールを投げる新田。手前二メートル程で止まったボールを拾う柴田。

柴田 「ありがとうございました」

右肩に触れた後、ランニングを再開す

る新田を見つめる天谷。

天谷「・・・新田？」

走る新田。

○新田家・外観（夜）

○同・新田の部屋（夜）

ベッドに座り、握ったボールを見つめる新田。

房子の声「明、電話よ」

立ち上がり、ドアを開ける新田。

電話の子機を持ち、立っている房子。

房子「天谷君から」

新田「天谷・・・」

子機を受け取る新田。

× × ×

ベッドに座り、電話で話す新田。

新田「もしもし」

天谷の声「あ、明か。お前帰ってきてたんな

ら言えよな」

新田「ごめん。ちよつとバタバタしてて」

○天谷家・居間（夜）

ソファに座り、電話の子機で話す天谷。
近くで恭子が理恵と遊んでいる。

天谷「そういえば、今日お前さ・・・」

○（フラッシュ）グランド

柴田に下手投げでボールを返す新田。

○（元の）天谷家・居間（夜）

子機で話す天谷。

天谷「・・・」

新田の声「ん、どうした？」

天谷「今日、お前暇だったんじゃないの？ 毎

日何してるんだよ」

新田の声「いや、帰ってきたばかりだから」

天谷「そうか・・・お前、週末空いてる？」

新田の声「週末？・・・まあ」

天谷「じゃあさ、飲みに行こうぜ」

○新田家・新田の部屋（夜）

子機で話す新田。

新田「今度の土曜な。分かった。じゃあな」

電話を切る新田。

高校時代の集合写真を見つめる新田。

写真に写る高校時代の新田と天谷。

○天谷家・居間（夜）

ソファに座り、高校時代の集合写真を

見つめる天谷。

理恵が抱きついてくる。

理恵「ねー、誰とお話ししてたの？」

立ち上がった、理恵を高く持ち上げる

天谷。

天谷「パパのヒーローだよ」

理恵「ヒーロー？　すごい」

理恵とじゃれあう天谷。その様子を笑

顔で見る恭子。

○新田家・外観（朝）

○同・居間（朝）

寝巻き姿の新田が入ってくる。

座卓の上にラップが掛けられた朝食。

時計を見る新田。

九時を回ったところを示す時計。

○工場・外観（朝）

大きな工場。

○同・作業場（朝）

機械の基盤検査を行う作業場。作業机

が並んでいる。

作業着を着た上司（50）と作業員達

が朝礼を行っている。その中に房子が

いる。

同僚A「新田さん。息子さん帰ってきたんだ

って？」

房子「ええ」

同僚B「息子さんって、この前引退したプロ

野球選手なの？」

房子「いや、まだ引退は・・・」

同僚A「凄いわよねー。あんな有名人が身内にいるなんて」

同僚B「本当羨ましい」

房子「まあ・・・」

上司「・・・という訳で今日も宜しくお願いします」

各々の作業机に散っていく同僚達。

房子に上司が後ろ手で近付いてくる。

上司「新田さん」

房子「はい」

上司「息子さん、帰ってきたんだって？」

房子「はい、そうです」

上司「実はお願いがあるんだけど。ウチの家の内が息子さんのファンでね」

後ろ手で持っていた色紙を、房子に差し出す上司。

上司「サイン貰ってきてくれない？」

房子「はあ・・・」

それを見て、駆け寄ってくる同僚達。

同僚 A 「ちよつと、ずるいですよ。新田さん、私にも一枚お願い」

同僚 B 「私は家族の分。合わせて 5 枚」

苦笑いの房子。

○新田家・居間（夜）

座卓に座る部屋着の新田。その前に置かれた大量の色紙。近くで洗濯物を畳む房子。

房子「悪いけど、お願いね」

新田「分かった」

房子を見る新田。

新田「仕事って何してるの？」

房子「派遣社員よ。工場で機械部品の検査してるんだけど、なかなか時給がいいのよ」

洗濯物を畳みながら話す房子の背中を見つめる新田。

○スナック『金井』・外観（夜）

飲屋街の一角にあるスナック『スナツ

ク金井”と書かれた看板が光っている。

○同・店内（夜）

広い店内。ほぼ満員。

ボックス席に座る新田と天谷。天谷の隣に金井純子（48）が座る。

テーブルの上にはウイスキーのボトルと水割りセット、スナック菓子。

純子「貞治君。水割りでいいのよね」

天谷「うん」

純子「お連れの方も水割り？」

新田「水割りで」

純子「あなた、どこかで見たことあるわ」

天谷「ママ、彼は地元のスーパースターだよ」

純子「え、有名人なの？」

天谷「プロ野球選手。ウチの高校出身だぜ」

純子「桜高校？」

天谷「そうだよ」

純子「すごい。よろしくお願いします」

新田の前に水割りを置く純子。

純子「今、女の子付けるから少し待ってて」

カウンターに戻っていく純子。

天谷「明」

グラスを掲げる天谷。

乾杯して飲み始める2人。

天谷「本当に久し振りだよな。お前全然帰ってこないもんな。何年振りだよ」

新田「父さんが死んだ年からだから、3年か」

天谷「・・・そっか、もう3年か」

酒を飲む新田。

光枝の声「はい、お待たせ」

光枝と和子（28）が現れる。

天谷「光枝かよ」

光枝「光枝かよって何よ」

新田の隣に座る光枝。天谷の隣に和子。

天谷「明。光枝の昼の仕事、何か分かるか？」

光枝「ちよつと貞ちゃん」

光枝をじつと見る新田。

光枝「・・・見詰め過ぎ」

恥ずかしがり、新田から視線を逸らす

光枝。はっとした表情で新田を見返す。

新田「何だろう。モデルとか？」

天谷「こんな所にモデルなんかいないだろう」

光枝「モデルで正解」

新田と笑い合う光枝。

天谷「こいつ、トラックの運転手やってるんだ。うちの現場にも出入りしてるんだぜ」

新田「ああ、貞治の家は土木会社だったよな」

天谷「まあ、一応専務だ」

新田「トラックの運転手か」

光枝を見つめる新田。

光枝「ねえ、もしかして新田？」

天谷「お前、唐突だな」

新田「新田です」

光枝「ニュースで見た。野球辞めたんでしょ」

表情が曇る新田。慌てる天谷。

天谷「おい光枝・・・」

新田「まあ解雇されたのは事実だしな」

バツの悪い表情の天谷。

天谷「・・・明。次の仕事決まってるのか？」

新田「・・・いや、決まっていけないけど」

天谷「・・・だったら、うちの会社に来ないか？　今、営業の人出が欲しくてさ。まあ明の知名度を利用するみたいで何だけど・・・」

新田「・・・悪い。実は来年のトライアウトを受けようと思ってるんだ」

天谷「え？　肩治りそうなのか？」

頷く新田。

天谷「そうか・・・良かったじゃないか。それなら仕方ない」

光枝「ねえ、頂いていい？」

天谷「いいよ。明の未来に乾杯しようぜ」

乾杯する四人。

×

×

×

新田に水割りを作る光枝。

光枝「新田はピッチャーなんだよね」

新田「そうだけど」

光枝「じゃあバッターは下手なんだ」

新田「下手っていうか。プロの選手には通用しないけど。高校時代は四番だった」

光枝「四番って1番良いバッターだよね！」

「凄いじゃん」

新田「まあ、そうかな」

光枝「ねえ、連絡先教えてくれる？」

新田「連絡先？」

光枝「そうよ」

光枝を見つめる新田。はだけの胸元。

新田「まあ・・・いいけど」

光枝「やった。携帯出して」

携帯を取り出し、連絡先を交換する新

田と光枝。

○同・店の前（夜）

新田と天谷を見送る光枝、純子、和子。

純子「貞ちゃん、ありがとうね。新田さんも

また来てね」

手を振って、歩き出す天谷と新田。

光枝が気になり、振り返る新田。手を

振る光枝と目が合い、微笑み合う。

ニヤけた顔で歩く新田。

○道路（夜）

並んで歩く新田と天谷。

天谷「じゃあ、ここで。また連絡する」

新田「おう、おやすみ」

手を振って帰っていく天谷と反対方向に歩き出す新田。

着信音が鳴り、携帯を見る新田。

“明日、暇？”と光枝からメッセージ。

ニヤけながら“午後から空いてるけど”

と返信する新田。

着信音が鳴り“じゃあ明日会える？”

と返ってくる。

デレついた表情で“いいよ”と返信し、

足取り軽く歩き出す新田。

○グランド・前

高級スーツにコートを羽織り、サングラス姿で光枝を待つ新田。通りすがりのグランド利用者にじろじろと見られている。

腕時計を見る新田。13時過ぎ。

光枝の声「おい、新田」

爽やかな笑顔で振り返るが、すぐに唾

然とした表情に変わる新田。

リュックを背負った翔を連れて近付い

てくるラフな服装の光枝。手にはバツ

トを持っている。

光枝「よっ」

唾然とする新田。

光枝「翔、挨拶は」

翔「よう！新田！」

新田「えつと・・・これは、どういう状況？」

光枝「この子に野球教えてほしいの。新田は

ピッチャー以外も上手いんですよ」

新田「教えるって・・・この子は？」

光枝「私の子供。南野翔10歳。4年生よ」

新田「子供！結婚してるの？」

光枝「してないよ。シングルマザーってやつ」

唾然とする新田。

○同

数人の利用客がいるグラウンド。

グローブをはめたワイシャツ姿の新田。

バックネット際でバットを構える翔。

少し離れた所でリュックを持ち、その

様子を見る光枝。

光枝「まさか、そんな格好で来るなんてね」

仏頂面の新田。

新田「行くぞー」

山なりのボールを投げる新田。

力一杯振るが、空振りする翔。

バックネットに当たって、跳ね返って

きたボールを拾う新田。

新田「もつとボールをよく見て」

構える翔。投げる新田。

ボールにかする翔のバット。

翔に近づく新田。

新田「構えて」

翔の構えを部分的に直す新田。

その様子を微笑ましく見る光枝。

○街頭時計（夕）

16時手前を示す時計。

○グランド（夕）

コートと上着を持ったワイシャツ姿の新田と相対する光枝と翔。

光枝「今日はありがとう。翔もお礼言っ

翔「新田、ありがとう！」

苦笑いの新田。

光枝「よかったら、また教えてくれる？」

新田「まあ予定が無ければ」

光枝「どうせ暇でしょ」

顔をしかめる新田。

光枝「じゃあ、またね。翔バイバイして」

翔「新田。またね！」

新田とハイタッチをする翔。

帰っていく光枝達を見送る新田。呆れ

た表情で笑みを浮かべる

○新田家・玄関（夕）

コート姿の新田が入ってくる。
靴を脱ぎ、自分の部屋に向かう。

○同・居間（夕）

部屋着の新田が入ってくる。
座卓に突っ伏して寝ている房子。その
右手の下に開いた通帳。
時計を見る新田。
18時過ぎを示す時計。

○同・台所（夕）

パスタを茹でる新田。

○同・居間（夕）

座卓に突っ伏して寝ている房子。背中に毛布が掛けられ、閉じた通帳が右手の横に置かれている。
目を覚ます房子。

○同・台所（夕）

パスタを皿に盛り付ける新田。

房子が慌てて入ってくる。

房子「ごめん。寝ちゃってた」

新田「もう出来るよ」

テーブルの上のパスタ。

房子「あら、なかなか美味しそうじゃない」

新田「数少ない俺のレパートリー」

○同・居間（夜）

座卓の上に2人分の食べ終わった皿。

向かい合って座る新田と房子。

房子「ごちそうさま。美味しかった」

皿を片付けようとする房子。

新田「いいよ。今日は俺がやるから」

房子「あら、どうしたの」

片付けを始める新田。

新田「仕事、大変なの？」

房子「大変って訳じゃないけど。まあ年だか

らね」

新田「ふうん」

皿を持って、部屋を出ていく新田の後ろ姿を見つめる房子。

○スナック『金井』・外観（夜）

○同・店内（夜）

カウンターに座る新田と天谷と2人の接客をする光枝。

新田「悪いな。呼び出しちゃって」

天谷「お前となら、いつでも歓迎だよ」

微笑み、酒を飲む新田。

光枝「私も貰っていい？」

天谷「勝手に飲んでろよ」

光枝「いただきます」

水割りを作る光枝。

新田「実はさ、この前言ってた話のことなん

だけど・・・」

天谷「ん、何の話？」

新田「ほら、その、貞治の会社で働かせてくれるって話」

天谷「・・・働いてくれるのか？」

頷く新田。その様子を見る光枝。

天谷「トレーニングはいいのか？」

新田「・・・ワガママなんだけど、残業は極

力無しにしてもらったりってできるかな。

給料も働に見合ったもので構わない」

天谷「分かった」

新田「1年だけの契約でもいいか？」

天谷「いいよ。でも、いきなりどうしたんだ？」

新田「・・・母に負担掛けたくなくてな」

天谷「そうか・・・いつから来れる？」

新田「いきなりなんだけど、月曜からでもいい

いかな？」

天谷「オッケー。じゃあ、朝7時半までに会

社に来てくれ」

新田「ありがとう」

光枝「新田、貞ちゃんのところで働くの？」

天谷「おう、大型新人獲得だ」

新田「オールドルキーだな」

光枝「じゃあ乾杯だ」

新田「明日に響かない程度にだな」

天谷「何だよ。明日って？」

光枝「翔のコーチしてもらってるの」

天谷「そういうことか。それにしても贅沢だな。超一流に教えてもらえるなんて」

光枝「とにかく新田の就職に乾杯」

天谷「乾杯！」

乾杯する3人。

○天谷建設・外観（朝）

2階建ての事務所。

“天谷建設”という看板。

○同・前

“天谷建設”とロゴが入った軽自動車に乗り込む新田と天谷。新田はスーツ姿。天谷はワイシャツにネクタイで作業服を羽織っている。

○軽自動車・車内

運転する天谷と助手席の新田。

天谷「ウチの会社は社員50人くらいの規模で、基本的に役所からの仕事を引き受けているんだけど。他にも大きな会社から下請けで仕事を受けたりもしてるんだ。そういう会社の営業回りをやってもらおう」

新田「営業か・・・」

天谷「まあ、新規開拓って訳じゃないし。御用聞きみたいな感覚でいればいいと思う」
緊張した面持ちの新田。

○川上建設・外観

中規模の事務所。

新田と天谷が入っていく。

○同・応接室

ソファに座り、青田（55）と対面する新田、天谷。

青田「君の活躍はずっと見てたよ。肩は残念だったけど、地元の誇りだよ」

笑みを浮かべ、頭を下げる新田。

天谷「青田さん。新田共々、これからよろしくお願いします」

青田「新田君、今度食事でもどうかな？ 君を連れていくと喜ぶ連中がいてね」

新田「あ、はあ・・・」

天谷「もちろん。喜んで」

青田「おお、嬉しいね。じゃあ、これからもよろしく頼むよ」

立ち上がり、新田に握手を求める青田。

天谷に促され、青田と握手する新田。

○軽自動車・車内

運転する天谷と助手席の新田。

天谷「・・・お前には悪いんだけど、プロ野球選手の肩書きを目一杯使わせてもらうことになる。もし、それが嫌だったら、他の部署も考えるけど。その場合、今の労働条件は保証できない」

新田「分かってるよ。それ位しか役に立てな

くて悪い」

天谷「そうだ。この近くにウチの現場があるから、挨拶がてら寄ってくか」

○工事現場・外観

バリケードに囲まれた工事現場。

○同・作業場

数名の作業員がヘルメットを被って働いている。

ヘルメットを被り、現場に入ってくる

新田と天谷。天谷の手には袋に入った

数本の缶コーヒー。

天谷「おい。柴田」

振り向く柴田に袋を掲げる天谷。

柴田「お疲れ様です。おい、みんな！ 社

長から差し入れた！」

続々集まってくる数名の作業員達。

天谷「ご苦労様」

柴田に袋を渡す天谷。

柴田「ありがとうございます」

新田に気付く柴田。

天谷「紹介するよ。今日から営業で働いてもらうことになった新田さんだ」

柴田「スワローズの」

ざわつく作業員達。

天谷「その通り。あの新田選手だ。そして彼は俺の高校の同級生でもある」

柴田「うわー、そういう繋がりを無理やり使って、スーパースターをウチの会社に入れたんですか」

天谷「人聞きの悪いことを言うな」

新田「僕からお願いしたんです」

表情が強張る柴田。

天谷「こいつ緊張してやがる。新田、挨拶してあげて」

新田「本日からお世話になります。新田です。

よろしくお願いします」

ざわつく作業員達。

柴田「こ、こちらこそ！ 新田さん、よろし

くお願いします！」

拍手する作業員達。

笑みを浮かべる新田。

天谷「みんな野球が好きでな。会社の草野球

チームも作ってるんだ」

柴田「そうなんですよ！ 新田さん、是非チ

ームに入ってくれませんか」

気まずい表情で新田を見る天谷。

新田「・・・すいません。まだちょっと肩の

調子が悪くて」

柴田「あ、そうだった。肩を怪我して引退し

たんですもんね。すいません」

表情が曇る新田。気まずい表情の天谷。

天谷「はい、休憩終了。仕事に戻れ」

柴田「新田さん、今度歓迎会開くので是非」

笑顔を作る新田を横目で見る天谷。

○軽自動車・車内

気まずい表情で運転する天谷。曇った

表情の新田。

天谷「・・・何か悪かったな」

新田「いや・・・大丈夫だよ」

天谷「・・・」

新田「俺って世間的に引退してるんだよな」

新田を横目で見て、何も言わない天谷。

曇った表情の新田。

○グランド・外観

○同（昼／夕）

バットを構える翔。ピッチャーが新田。

それを見ている光枝。

緩いボールを投げる新田。打ち返す翔。

小さな拍手をする光枝。

翔「どうだ！」

ボールを拾って、戻ってくる新田。

新田「ナイスバッティング」

光枝にガッツポーズを見せる翔。笑顔

でガッツポーズを返す光枝。

× × ×

夕焼け。

新田と向かい合って話す光枝と翔。

光枝「今日もありがとうね」

新田「ああ」

光枝の服の裾を引っ張る翔。それに気付く新田。

光枝「あのね・・・もうすぐクリスマスですよ。ウチでパーティーするんだけど。この子が新田も来れないかって・・・」

新田「ああ、もうそんな時期か」

目を輝かせ、新田を見つめる翔。それを見て、笑みを浮かべる新田。

新田「大丈夫だよ」

笑顔で顔を見合わせる光枝と翔。

翔「やった！」

光枝「何か悪いね」

新田「いや、こっちこそ親子水入らずの所を

邪魔しちゃうんじゃないか？」

光枝「そんなことないよ。大歓迎」

2人のやり取りをニヤニヤして見る翔。

翔「お母さんが一番嬉しいんだよ」

光枝「は！ 何言ってるのよ」

恥ずかしがる光枝。笑顔の翔。

2人を見て微笑む新田。

× × ×

1人マウンドに立ち、手に持ったボールを見つめる新田。

ホームベースを見つめる。

投球態勢に入る新田。

ボールを投げる瞬間、痛みで顔を歪め、

ボールを離す。

転々と転がるボール。

険しい表情で肩を抑える新田。

グラウンド上のボール

○新田家・外観（夜）

○同・新田の部屋（夜）

部屋着でベッドに座る新田。その手には携帯。

電話を掛ける新田。

数回のコール音の後、留守電に切り替

わる。ピーという発信音。

新田「・・・新田です。手術の件、どうなっ

てるのか知りたくて電話しました。一度連

絡欲しいです。よろしくお願いします」

電話を切る新田。肘を膝につき、うなだれる。

○同・居間

12月25日を示すカレンダー。

○道（夕）

辺りを見回しながら歩く新田。ラフだ

が上品でお洒落な服装。手には手提げ

袋が2つ。

○団地・前（夕）

光枝と翔が新田を待っている。

光枝はラフだがお洒落な服装。

歩いてくる新田を見つける翔。

翔「あ、新田だ！」

新田に駆け寄っていき、光枝の元に連れてくる翔。笑顔を見せる光枝。

光枝「いらっしやい」

微笑んで頷く新田。

翔「ねえ、ウチに入ろう」

新田の手を引き、部屋へ向かう翔。その後をついていく光枝。

○光枝の部屋・ダイニング（タ）

新田と翔が入ってくる。その後から光枝。

部屋中に飾り付けがしてあり、小さなクリスマスツリーが置いてある。

テーブルの上にはラップのかかった、ご馳走が並んでいる。

翔「これ、お母さんと2人でしたんだよ」

新田「おー凄いな」

部屋を見回し、光枝を見る新田。

照れ臭そうに微笑む光枝。

光枝「ねえ、隣の部屋で待ってて。準備するから」

新田「これ買ってきたんだ」

新田から渡された袋からワインを取り出す光枝。

光枝「わあ、ありがとう」

翔「新田、ゲームしよう。お母さんにクリスマスプレゼントで買ってもらったんだ」

翔に連れられ、隣のリビングへ移動する新田。食事の準備に取り掛かる光枝。

○同・リビング（夜）

テレビゲームをする新田と翔。

光枝の声「出来たわよ」

翔「はい！行こう新田」

ゲームをやめ、ダイニングへ移動する新田と翔。

○同・ダイニング（夜）

リビングから入ってくる新田と翔。

翔「わあ、いい匂い」

テーブルに並ぶ、盛り付けされたご馳

走とワイン、ジュース。

テーブルの側に立つ光枝。

光枝「さあ、座って」

翔「うん」

新田を中心として、両隣にコの字にな

って座る光枝と翔。

新田「あ、そうだ」

席を立ち、置いてある袋を持つ新田。

新田「翔にプレゼント」

翔「うわあ、マジ！」

新田から袋を受け取り、中身を取り出

す翔。新品のグローブ。座る新田。

翔「格好いい！新田ありがとう！」

新田「これで、いっぱい練習するんだぞ」

リビングへグローブを置きに行く翔

光枝「ありがとう」

新田「いいよ」

戻ってきて、席に座る翔。

光枝「じゃあ、食べましょうか」

翔「いただきます！」

食事を始める3人。新田にワインを注

ぐ光枝。新田も注ぎ返す。翔は自分で

ジュースを注ぐ。

乾杯し、ワインを飲む新田と光枝。

光枝「おいしい」

微笑み合う新田と光枝。それを見て笑

顔を見せる翔。

× × ×

片付けられたテーブル。

座っている新田と翔。

ケーキを持ってくる光枝。

テーブルに置かれるケーキ。

翔「わあ」

ケーキをカットし、配る光枝。

× × ×

美味しそうにケーキを食べる3人。

翔「ねえ、新田。今日泊まっていた」

新田「え？ 着替えとか持ってきてないしな」

翔「さつきパジャマ買ってきたんだ」

光枝を見る新田。

照れ臭そうに微笑む光枝。

光枝「新田がいいなら」

新田「・・・じゃあ」

翔「やった！ 一緒にお風呂入ろう！」

光枝「先に歯磨きしてね」

翔「はい」

洗面所のある浴室へ向かう翔。

光枝「何か強引でごめん」

照れ臭そうに話す光枝。

新田「歯ブラシある？」

光枝「洗面所に」

微笑み、浴室へ向かう新田。

○夜空

輝く月。

○光枝の部屋・リビング（夜）

布団で眠る翔。

○同・ダイニング（夜）

寝巻き姿の新田と光枝がテーブルに座っている。

新田「寝ちゃったな」

光枝「朝からはしゃいでたからね」

新田「そうだ」

立ち上がり、ハンガーに掛かったコート

から包みを取り出し、席に座る新田。

新田「これ」

包みを光枝に手渡す新田。

戸惑いの表情を見せる光枝。

新田「クリスマスプレゼント」

光枝「・・・開けていい？」

頷く新田。包みを開ける光枝。

箱に入ったネックス。

口に手を当て、息を呑む光枝。

光枝「・・・ありがとう」

照れ臭そうに目を逸らす新田。

沈黙する二人。

新田の手が光枝の手を握る。

見つめ合う二人。

翔が部屋に入ってくる。驚いて手を離

し、そっぽを向き会う新田と光枝。

目をこすりながら浴室へ歩いていく翔。

光枝「・・・トイレみたいね」

肩を震わせ、声を殺し笑う新田。

同じ様に声を出さず笑う光枝。

繋がれた二人の手。

○同・リビング（夜）

月明かりの入り込む室内。

布団の中で眠る翔を撫でる光枝。

2つ並んだ布団。翔が寝ている布団の、

隣の布団の上に座る新田。

光枝「そっちで寝てね」

残念そうに頷く新田。

翔を挟んで布団に入る新田と光枝。

光枝「おやすみ」

新田「おやすみ」

翔を挟んで見つめ合う新田と光枝。

翔の上で手を重ね、小声で話す二人。

光枝「・・・私ね。新田のこと、本当は前から知ってたの」

新田「へえ」

光枝「最初に知ったのは、18の時かな。高校中退して、ブラブラしてた時だった」

新田「・・・」

光枝「新田がプロ野球選手になるって、テレビのニュースでやってて、凄く話題になった」

新田「・・・だったな」

光枝「その時は単純に、同じ歳なのに私とは大違いだなんて。そんな風に見てた」

新田「・・・」

光枝「でね・・・次に新田を見たのが、離婚して1年位経った時だった」

翔を撫でる光枝。

光枝「この子は、まだ2歳だった」

新田「・・・」

光枝「その時は夜の仕事だけしてたの。この子は夜間の託児所に預けてね。はつきり言ってる、一杯一杯だった。私みたいなバカが一人で子供育てるっていうのは、本当に難しいの・・・限界超えてた」

新田「・・・」

光枝「そんな時にこの子が熱出して、仕事も行けなくなってるさ。看病しながら思ったわ。

何なんだろう私の人生ってね。その時、テレビでプロ野球中継が流れてた」

新田「そこで俺を見た？」

頷く光枝。

○（回想）昔の光枝の部屋（夜）

六畳程の和室。殺風景な内装。布団で眠る南野翔（2）の側に座る南野光枝（22）。

実況の声「ここで4年目の新田がマウンドに上がります」

声に反応し、小さなテレビを観る光枝。
画面に映るスワローズのユニホーム姿
の新田明（22）。

テレビを観る光枝。

光枝 M 「新田、滅多打ちされてさ」

× × ×

画面の中で滅多打ちを喰らう新田。

実況の声「新田、また打たれました。これは
ひどい」

テレビを観る光枝。

光枝 M 「それ観ながら、ああ、人生そんな簡
単にいかないんだなって。厳しいな。嫌だ
なって・・・」

布団で眠る翔を、疲れた表情で見つめ
る光枝。

実況の声「あれ、新田笑ってませんか？」

テレビを観る光枝。

画面の中、マウンドでキャッチャーと
話す新田。明るい表情。

実況の声「何故か笑顔を見せる新田。一体ど

んな神経をしているんでしょう」

明るい表情の新田がアップで映る。

呆然とテレビを観る光枝。

○（元の）光枝の部屋・リビング（夜）

翔を挟んで、手を重ね、小声で話す新田と光枝。

光枝「その後も打たれまくって、結局交代させられたんだけど」

苦い顔をする新田。

光枝「新田は最後まで楽しそうに投げてた。覚えてる？」

新田「打たれたのは覚えてるけど・・・」

光枝「私、笑っちゃって。何なのコイツって。悩んでるのがバカバカしく思えてきちゃって」

新田「・・・」

光枝「次の日、実家に帰ったわ。親とは喧嘩してたんだけど、何も言わずに置いてくれた。それから、親にこの子の世話を手伝っ

てもらって、昼の仕事探してね。今の会社に拾ってもらった」

新田「・・・」

光枝「その時から・・・新田は私のヒーローなの」

微笑む光枝を見つめる新田。

手を強く握る二人。

○同・リビング（早朝）

布団で眠る新田と翔。

目を覚まし、光枝がいないことに気付く新田。

○同・ダイニング（早朝）

リビングから入ってくる新田。

料理をする光枝。首には新田から貰っ

たネックレス。

時計を見る新田。

5時半辺りを示す時計。

光枝「あ、おはよう」

新田「・・・おはよう。それ」

光枝「似合う？」

新田「似合うよ」

照れ臭そうに微笑む光枝。

光枝「今日、仕事でしょ。一度帰ると思って、

早めに朝ごはん作ってたの」

新田「いいのに」

光枝「私が作りたいの」

微笑み、テーブルに座る新田。

× × ×

6時半過ぎを示す時計。

テーブルに並んだ空の食器。

新田の隣に座る光枝。

新田「ごちそうさま」

光枝「コーヒー飲む？」

新田「ありがとう」

空の食器を持って調理場に向かう光枝。

テレビからニュースが流れる。

新田「翔はまだ起きないの？」

光枝「冬休みだしね」

テレビを観る新田。

コーヒーを持って席に座る光枝。

それぞれの前にコーヒーを置く光枝。

新田「ありがとう」

コーヒーを飲む2人。

新田「えっと・・・」

光枝「光枝でいいよ」

新田「光枝も今日仕事？」

光枝「うん、28日までかな」

新田「明後日か。俺もそうだわ」

コーヒーを飲む2人。

新田「正月はどうしてる？」

光枝「実家に帰るかな」

新田「そう」

光枝「大晦日はいるけど」

新田「・・・じゃあ、来るよ」

光枝「翔も喜ぶ」

微笑み合う2人。

× × ×

空になったコーヒークップ。

帰り支度をする新田。

新田「じゃあ、連絡するよ」

光枝「うん」

コートを羽織る新田の側に立つ光枝。

アナウンサーの声「次のニュースです。元プ

ロ野球選手の野坂輝一容疑者が昨夜、詐欺

の疑いで逮捕されました」

眉をひそめ、テレビ画面を見る新田。

画面内で警察に連行される野坂の姿。

アナウンサーの声「野坂容疑者は解雇された

プロ野球選手等に、怪我を治せる医者を紹介

する等と嘘をつき、紹介料として多額の

金銭を騙し取った疑いで警察に逮捕され

ました。被害者は数名おり、被害額は五千

万円を超えられます。野坂容疑者は

経営する飲食店がうまくいっておらず、多

額の借金の返済の為にやったと話してい

るということです」

テレビ画面を呆然と見る新田。

不安げな表情で新田を見る光枝。

光枝「どうしたの・・・？」

画面を見たまま動かない新田。

○天谷家・居間（朝）

野坂逮捕のニュースが流れるテレビ。

ソファに座り、テレビを観る天谷。

携帯の着信音。電話に出る天谷。

天谷「明。え、うん。東京？ うん、警察？

そうか、分かった。今年はまだ会社に来なくても大丈夫だから。いいよ、気にするこ
とない。そっちをきちんと対処しないと」

不安気に天谷の様子を見守る恭子。

電話を切る天谷。

天谷「明、東京の警察に呼ばれたって」

恭子「このニュースって、やっぱり・・・」

テレビに映る逮捕された野坂。

○警察署・外観

○同・応接室

狭い室内。ステンレスの机を挟んで座る新田と刑事（４５）。

刑事の話に頷いている新田。

○同・出入り口前

署内から出てくる新田。

○田舎の車道

路肩にダンプを止め、携帯で話す光枝。

○天谷建設・前

携帯で話す天谷。

天谷「光枝、明から連絡あったか？」

光枝の声「ない。貞ちゃんにもないの？」

○ダンプトラック・車内

携帯で話す光枝。

天谷の声「事情聴取とかで忙しいんだろ？」

光枝「うん・・・」

○天谷建設・前

携帯で話す天谷。

天谷「何だよ？」

光枝の声「・・・変なこと考えてないかな」

ため息をつく天谷。

天谷「大丈夫だよ。明は大丈夫だ」

○ダンプトラック・車内

携帯で話す光枝。

光枝「そうだよね・・・」

天谷の声「いいか。明を支えてやるのはお前の役目なんだぞ。しっかりしなきゃ」

光枝「・・・うん。分かった・・・うん、じ

ゃあ」

携帯を切る光枝。

ハンドルに突っ伏す光枝。

○沈む太陽

○新田家・外観（夜）

○同・居間（夜）

2 3 時過ぎを示す時計。

座卓に突っ伏し眠る房子。

ランプが掛けられた夕食のおかず。

○光枝の部屋・ダイニング（夜）

携帯で新田に電話をする光枝。

コール音が留守電に変わる。

電話を切り、不安げな表情の光枝。

着信音。

慌てて電話に出る光枝。

光枝「はい！」

天谷の声「光枝。明から連絡あったか？」

ため息をつく光枝。

光枝「ない。電話も繋がらない」

天谷の声「そうか。明日、明のお母さんにも

聞いてみるわ」

光枝「うん、お願い」

天谷の声「とにかく、お前はしっかりとす

んだぞ」

光枝「分かった。それじゃあ」

電話を切る光枝。

○天谷家・居間（朝）

ニュースが流れるテレビ画面。

アナウンサーの声「12月27日の朝です。

皆さんおはようございまーす」

携帯で話す天谷。

天谷「もしもし天谷です。おはようござい
す。いえ、こちらこそ。あの、昨日明君は？
え、はい。帰ってきていないんですか。は
い、分かりました」

天谷を心配そうに見つめる恭子。

電話を切る天谷。

恭子「帰ってきてないって？」

頷いてソファに座る天谷。その隣に座
る恭子。

恭子「大丈夫かな」

天谷「あいつはこんなことで負けない。俺達
のヒーローなんだから」

恭子「それ、いつも言うよね。プロ野球選手だから？」

天谷「その前から、あいつはヒーローなんだ」

恭子「どういうこと？」

天谷「・・・高校のとき、俺らの野球部、変な伝統っていうの。昔ながらの1年生は奴隷っていうやつ。ああいうのあつてさ。毎年そういうのが嫌で数人辞めてくんだけど。当然俺らの代でも辞めるやつが出てさ。その中に俺もいた」

恭子「・・・」

天谷「それで練習に行かなくなってさ。やることもなくて、家にいたんだ。そしたら明が来たんだ」

○（回想）天谷の実家・玄関（夜）

新田明（16）と天谷貞治（16）が向かい合っている。

新田「天谷さ、野球嫌い？」

天谷「嫌いじゃないけどさ・・・」

新田「じゃあ、何で辞めちゃうんだ？」

天谷「だって、ああいうの苦手だし・・・」

新田「・・・俺も苦手だよ。でも野球とは全

然関係ないだろ。辞める必要なんてないよ」

天谷「でも俺、ああいうの耐えられないよ」

新田「じゃあ耐えなくていい」

天谷「え？」

新田「だから、耐えなくていい。俺達は俺達

で野球をやればいい」

天谷「は？」

新田「1年は全員別行動で練習するんだ。俺

達は野球部に入ったんだから、練習する権

利はある。ボールとバットは自分達で使う

分だけ用意すればいい。場所なら市営のグ

ランドがある」

天谷「お前、本気で言ってるの？」

新田「本気だよ。他の奴らの了承も取った」

天谷「でも、それで全員が辞めさせられたら

どうするんだよ」

新田「監督や上級生も1年生全員が辞めるこ

となんて望んじやいないよ。これは革命なんだ。ああいう悪い風習をなくす為に俺達が立ち上がるんだよ」

哑然とした表情で新田を見る天谷。

新田「どうだ？」

自信満々の笑みを浮かべる新田。

笑顔を浮かべ、頷く天谷。

○（元の）天谷家・居間（朝）

ソファに並んで座る天谷と恭子。

恭子「凄いな。どうなったの？」

天谷「明の言うとおり、監督と上級生が折れた。向こうから戻ってきてくれた」

驚いた表情の恭子。

天谷「それからは変な伝統もなくなって、本当の野球部が変わった。元々、上級生も伝統だから仕方なくやってたっていうのもあったらしいけど。でも、それを変えたのは間違いなく明だった」

恭子「・・・早く戻ってくるといいね。ヒ」

ロー」

天谷「・・・そうだな」

○田舎の駅・前（夜）

出入りする人達。

虚ろな表情の新田が出てくる。

タクシーを捕まえ、乗り込む新田。

走り出すタクシー。

○タクシー車内（夜）

後部座席に座る虚ろな表情の新田。

運転手Bがチラチラと新田を見ている。

運転手B「あ、う、もしかして新田選手じゃないですか？」

運転手Bの方をチラと見て、すぐに視線を戻す新田。

新田「いえ、違います」

運転手B「えー本当ですか？よく似てるな

あ。私ね、新田選手の大ファンなんですよ」

新田「・・・」

運転手B「今、ほら、ニュースでやってるで

しょ。詐欺にあったって・・・」

新田「すいません、停めてもらえますか」

○繁華街・道端（夜）

停まっているタクシーから出てくる新

田。走り出すタクシー。

賑わう繁華街の方へ歩いていく新田。

○団地・外観（夜）

○光枝の部屋・リビング（夜）

布団で眠る翔。

○同・ダイニング（夜）

テーブルに座り、寝巻きでテレビを観る光枝。

テーブルの上の携帯をチラ見する。

チャイム音。

時計を見る光枝。22時半過ぎを示す。

○同・玄関（夜）

出入り口に近付く光枝。

光枝「・・・はい」

新田の声「・・・俺だけど」

ハツとした表情で鍵を開け、ドアを開

く光枝。

酔っ払った新田が立っている。

新田「入っていい？」

光枝の返事を待たず、玄関に入ってくる新田。

○同・ダイニング（夜）

足を投げ出して椅子に座る新田。

水を持ってきて新田の前に置き、座る

光枝。水を飲む新田。

光枝「・・・大丈夫？」

新田「・・・何が？」

光枝「警察に行ってきたんでしょ」

新田「そうだよ。騙されてたってさ」

光枝「そう・・・」

新田「野坂さんっていうんだけどさ。俺を騙した人ね。結構いい人なんだよね。後輩想いっていうか。ずっと気に掛けてくれて、て・・・何軒かお店経営してるんだけど、うまくいってなかったらしくて。それなら、そうって言うてくれればいいのにさ。それだったら貸せるだけ貸すさ。金なんか、どうだっていいんだ」

光枝「・・・」

新田「何で、あんな嘘をつくんだ。自分も野球選手なら、その嘘がどれだけ残酷なものか分かる筈だろ」

光枝「・・・」

新田「自分の肩なんだ。自分が一番分かる。もう投げることはできないって・・・けど、ほんの小さな希望でも、すぎるしかないんだから・・・」

うなだれ、唇を噛み締める新田。

光枝「・・・だよね。そうだよね」

新田の手を握る光枝。

寄り掛かってくる新田を抱き締める光枝。

光枝を強く抱き締める新田。

新田の頭を優しく撫でる光枝。

○同・リビング（早朝）

薄暗い室内。布団で眠る新田が目覚めます。

隣に光枝。その隣に翔が寝ている。

光枝の寝顔を見つめ、ゆっくりと起き

上がる新田。

○団地・前（早朝）

薄暗い中、帰っていく新田。

○天谷家・居間（朝）

ソファに座り、新聞を読む天谷。奥で

朝食の片付けをしている恭子。

着信音。

テーブルに置いてある携帯を取り、電話に出る天谷。

天谷「もしもし、光枝」

光枝の声「貞ちゃん。昨日ね、新田が家に来た」

天谷「本当か！　それで、どんな様子だった」

天谷に視線を移す恭子。

光枝の声「うん、落ち込んだ。泊まっていたんだけど朝起きたらいなくて・・・」

天谷「また、いなくなったのか？」

光枝の声「ううん、新田のお母さんに聞いたら、帰ってきてるって」

天谷「そうか」

光枝の声「でも、部屋に入ったきり何も話してくれないんだって」

天谷「そうか・・・連絡ありがとう。とりあえず、今日仕事終わったら、明の家に顔出してみるよ」

光枝の声「うん・・・お願い」

切れる電話。

真剣な表情の天谷。

○新田家・仏間

仏壇の前に座る新田。

父親の遺影。

遺影を見つめる新田。

○同・居間

仏間から入ってくる新田。棚に飾られた自分の盾やトロフィーを見る。

○同・前（夜）

仕事帰りの房子が家に入っていく。

○同・居間（夜）

入ってくるなり驚く房子。

盾やトロフィーが床に散らばっている。

チャイム音。

振り向く房子。

○同・玄関（夜）

土間に立つ天谷。

慌てた様子の房子がホールに出てくる。

天谷「あ、こんばんは・・・」

房子「天谷君、あの子やっぱり駄目みたい・・・」

二階からドンという衝撃音。

上を見上げる二人。

天谷「失礼します！」

慌てた様子で靴を脱ぎ、家に入って階

段を駆け上がる天谷。

不安げな表情の房子。

○同・新田の部屋前（夜）

駆けてくる天谷と房子が、出入り口の

前で立ち止まる。

天谷「明、俺だ！ 入るぞ！」

出入り口を開ける天谷。

○同・新田の部屋（夜）

勢いよく入ってきた天谷が、驚きの表

情に変わる

首にロープを巻き、倒れている新田。

天谷に続いて、明を見つける房子。

房子「明！」

新田に駆け寄り、抱きかかえる天谷。

天谷「明！　しっかりしろ！」

天井に切れたロープの切れ端。

動かない新田。

天谷「おばさん、救急車！」

房子「は、はい」

急いで部屋を出て行く房子。

新田を揺すり続ける天谷。

動かない新田。

○病院・外観（夜）

○同・病室（夜）

首に包帯を巻き、ベッドで眠る新田。

不安気な表情でベッドの側に座り、新

田を見守る房子。

○同・病室前（夜）

光枝と翔が早足で歩いてくる。

二人を出迎える天谷。

光枝「新田は？」

病室に顔を向ける天谷。

光枝も病室を見る。

○同・病室（夜／昼）

ベッドで眠る新田を看病する房子。

ノックの音。光枝が翔と入ってくる。

房子と目が合い、会釈する光枝。

翔「あ、新田」

慌てて口を押さえる翔。微笑む房子。

房子「こっちにおいで」

光枝の顔を見る翔。頷く光枝。

房子の側に近付く翔。

翔を座らせ、立ち上がる房子。

翔「お婆ちゃん。新田、病気なの？」

房子「ん？ うん。そうなの」

翔「え・・・死んじゃうの？」

表情が固まるが、気丈に答える房子。

房子「お医者さんは大丈夫だって言ってたよ」

翔「そうなんだ。良かった」

房子「お兄ちゃん、お名前は？」

翔「翔だよ」

房子「翔君はあき、えつと新田とお友達なの？」

翔「友達っていうか、野球教えてもらってる」

房子「それは良かったね。新田は野球上手だ

から」

翔「うん。プロ野球選手だもんね」

房子「・・・そうね」

光枝を見る房子。

房子「えつと・・・」

光枝「光枝です」

房子「光枝さん。ごめんなさいね。この子が

迷惑掛けちゃって」

光枝「いえ・・・ここまで悩んでたなんて・・・」

声を詰まらせる光枝。

房子「いいえ。いくら悩んでたって。この子のしたことは許されることじゃないの」

頷く光枝。

房子「本当に馬鹿なことを．．．」

涙をこらえる房子。

翔「お婆ちゃん。大丈夫？」

房子「ありがとう。大丈夫よ」

翔を撫でる房子。

新田を見つめる光枝。

眠る新田

× × ×

窓から差し込む光が眠る新田に当たっている。

うつすらと目を覚ます新田。

辺りを見回し、自分が病院にいること

に気付き、後悔の表情を浮かべる。

出入り口が開き、光枝が入ってくる。

目を合わせる二人。

起き上がろうとするが、痛みで起き上

がれない新田。

ゆつくりと椅子に座る光枝。

光枝「気分はどうなの？」

新田「・・・」

光枝「死ねなくてガツカリってところ？」

新田「・・・」

光枝「でもさ、やっぱりあなたって凄い人なのね」

キョトンとする新田。

リモコンを取り、テレビを点ける光枝。

ニュースが流れる。

ニュースキャスターの声「現在、元スワローズの新田明さんが入院する病院の前に来ております」

驚く新田。

光枝「お母さん、仕事に行っただけで、病院出るときインタビュー責めに遭って大変だったのよ」

新田「・・・」

光枝「ねえ、死のうと思ったとき、周りの人のことは何も考えなかった？」

新田「・・・すまない」

光枝「・・・何？何が？」

新田「・・・」

光枝「・・・辛いよね。大事な人の支えにも
なれないって・・・」

眉をひそめる新田。

光枝「先生呼んでくる。意識が戻ったこと知
らせてこないと」

立ち上がる光枝の腕を掴む新田。

涙を滲ませ、新田を見つめる光枝。

ハッとした表情で手を離す新田。

部屋を出て行く光枝。

出入り口を見つめる新田。

新田のニュースが流れるテレビ。

○新田家・前

玄関に正月飾りが付いている。

天谷の車が前に停まる。

車から降りてくる新田。天谷も降りて、

車から新田の荷物を取り出す。

○同・玄関

入ってくる新田と天谷。天谷は荷物を
持っている。

ホールに出てくる房子。

房子「天谷君、ありがとうね」

天谷「これ、明の荷物です」

荷物を房子に手渡す天谷。

天谷「じゃあ、僕は帰りますね」

新田「上がっていかないのか？」

天谷「家族サービスに正月休みはないんだよ」

新田「そうか・・・」

天谷「とりあえず、仕事初めは5日だから。

ゆつくり休んで、体調調整してくれ」

房子「天谷君。本当にありがとうね」

天谷「いいえ。何かあったら、すぐに連絡し

てください。駆け付けますから」

大仰なお辞儀をする房子。

天谷「それじゃあ」

新田「ああ」

玄関を出て行く天谷。

房子「何か食べる？ お雑煮作ってあるけど」

新田「いや、今はお腹空いてないから」

家に上がり、自分の部屋に向かう新田。
その後ろ姿を見つめる房子。

○同・新田の部屋

部屋の真ん中に佇む新田。
机に置かれたグローブとボールを、手に取ってしばらく見つめた後、強く握り締める新田。

○同・押入れ

戸が開き、グローブとボールを持った新田が中を覗く。
グローブとボールを中に置き、それをしばらく見つめた後、戸を閉める新田。
暗闇。

○同・居間（夕）

テレビを観ている房子。
飾られていた新田の盾やトロフィー、

写真パネル等が無くなっている。
チャイム音。

房子「はい」

居間を出て行く房子。

○同・玄関（夕）

配達員がダンボール箱を持って、土間に立っている。

ホールに出てくる房子。

配達員「宅配です」

房子「ご苦労様です」

ホールにダンボール箱を置く配達員。

伝票にサインを貰い、出て行く配達員。

貼ってある送り状を見る房子。

送り主に“スワローズ球団”宛名に“新

田明”と書いてある。

○同・新田の部屋（夕）

ベッドに横たわる新田。

房子の声「明、ちよつと来て」

体を起こす新田。

○同・居間（夕）

入ってくる新田。

立っている房子と、座卓の上に置かれ

たダンボール箱。

房子「これ、球団から送られてきたんだけど」

ダンボール箱を開く新田。

中に入った大量のファンレター。

覗き込む房子。

房子「あら、ファンレターじゃない。凄い量」

困惑の表情の新田。

房子「何枚あるのかしら」

部屋を出て行こうとする新田。

房子「え？　読まないの？」

新田「一般人がファンレター貰ってどうする

んだよ」

部屋を出て行く新田。

房子「ちよっと、これどうするのよ」

呆然とため息をつき、ダンボール箱の

前に座る房子。

中から一通ファンレターを取り出す。

子供の字で書かれた宛名。

封筒を開き、中身を読む房子。

房子「新田選手頑張って下さい」か。可愛い」

別のファンレターを取り出す房子。

男性の字で書かれた宛名。

封筒を開き、中身を出す房子。

数枚の手紙。

読み始める房子。

真剣な表情に変わる。

○同・新田の部屋（夕）

ベッドに横たわる新田。

階段を上がってくる音。

房子の声「明、明！」

起き上がる新田。

○同・新田の部屋前（夕）

出入り口から顔を出す新田。

真剣な表情の房子が立っている。足元にダンボール箱。

房子「これ、ちゃんと読みなさい」

新田「やめてくれよ。もう野球のことは考えたくないんだよ」

房子「ダメよ！あなたは一般人なんかじゃないの。もう戻れないの。一度ヒーローになつた人はもう戻れないのよ」

新田「何で、そんなこと・・・」

一通のファンレターを差し出す房子。
房子「いきなり全部読まなくてもいいの。でもこれだけは今読んでほしい」

差し出されたファンレターを渋々受け取る新田。

一階に戻っていく房子。

ファンレターを見つめる新田。

○同・新田の部屋（夕）

ファンレターを持ち、ベッドに座る新田。足元にダンボール箱。

ファンレターを読み始める新田。

“はじめまして。私は四十代の会社員です。”と書き出し。

会
社
員
の
声
「はじめまして。私は四十代の会社員です。今回、新田さんのニュースを見て、この手紙を書かなければ、自分の思いを伝えなればと思い、筆を取らせていただきました。何故そう思ったかといいますと、あなたに命を救ってもらったからです」
読み進める新田。

○同・居間（夕）

棚に新田の盾やトロフィーを並べる房
子。

会
社
員
の
声
「以前私は仕事で致命的なミスを犯し、会社の存続に関わるような損害を出してしまいました。絶望に暮れた私は、自分の命を絶とうと決めました」

○同・新田の部屋（夕）

ファンレターを読む新田。

会社員の声「野球が好きだった私は、最後に試合観戦をして事に及ぼうと思い、球場に向かいました。そこで投げていたのが新田選手です。その頃の新田選手はまだ駆け出し中で、その日は敗戦処理として登板されました」

○（回想）スタジアム（夜）

マウンドに立つ新田。

× × ×

会社員の声「駆け出し中の投手が必死に投げるのは当たり前なのですが、あなたは違っていた。あなたは勝つ為に投げていた」

必死の形相で投げる新田。

× × ×

会社員の声「周りの選手、観客も完全に諦めている中、あなただけ勝つことを諦めていなかった。あなたはファールボールを必死で追い」

フアールボールを追いかけてダイビング
する新田。ボールは捕れない。

× × ×

会
社
員
の
声
「
回
っ
て
き
た
打
席
で
は
、
内
野
ゴ
ロ
で
ヘ
ッ
ド
ス
ラ
イ
デ
イ
ン
グ
を
し
た
」

一塁にヘッドスライディングする新田。

会
社
員
の
声
「
泥
だ
ら
け
の
ユニ
ホ
ー
ム
で
プ
レ
イ
す
る
あ
な
た
を
観
て
、
気
付
く
と
私
は
涙
を
流
し
て
い
ま
し
た
」

倒れたまま悔しがる新田。

○（元の）新田家・新田の部屋（夕）

ファンレターを読む新田。

会
社
員
の
声
「
私
は
死
ぬ
こ
と
を
や
め
ま
し
た
。き
ち
ん
と
最
後
ま
で
頑
張
ろ
う
と
思
い
ま
し
た
。そ
の
会
社
は
結
局
ク
ビ
に
な
り
ま
し
た
が
、今
は
別
の
会
社
で
一
生
懸
命
頑
張
っ
て
い
ま
す
。こ
ん
な
手
紙
で
あ
な
た
の
励
ま
し
に
な
る
と
は
思
い
ま
せん
が
、諦
め
な
い
で
く
だ
さ
い
。私
は
あ
な
た
の
お
か
げ
で
生
き
て
い
る
の
で
す
」

ファンレターをしばらく見つめ、脇に置く新田。

ダンボール箱から別のファンレターを取り、読み始める。

○天谷家・居間（夕）

理恵と遊ぶ天谷。

少女の声「新田選手がんばって」

男性の声「いつも新田さんに勇気を貰ってました。諦めないで！」

高校時代の集合写真。

○アパート・前（夕）

光枝のアパート。壁当てをする翔。

少年の声「僕は病気です。多分治らないと思います。お母さんが泣いているのを知っています。野球をやっていましたが、病気のせいで辞めました。ピッチャーでした。勿論新田選手のファンです。新田選手の諦めないところが大好きです」

○光枝の部屋・ダイニング（夕）

料理をする光枝。

少年の声「だから負けないでください。僕も

病気に負けないように頑張ります」

光枝の首に掛かるネックレス。

○新田家・新田の部屋（夕）

涙を流しファンレターを読む新田。

少年の声「僕には夢があります。生まれ変わ

ったら、新田選手のようなピッチャーにな

ることです」

うなだれ、肩を震わせる新田。

○同・居間（夜）

飾られた新田の写真パネルを見て、微

笑む房子。

○天谷家・居間（夜）

理恵と遊ぶ天谷。

理恵「パパ、明日からお仕事なの？」

天谷「うん、そうだよ」

奥で洗濯物を畳んでいる恭子。

チャイム音。

天谷「俺が出るよ」

恭子「ありがとう」

玄関へ向かう天谷。

○同・玄関（夜）

ホールに出てきて、驚きの表情を浮かべる天谷。

天谷「明」

土間に立つ新田。

○同・居間（夜）

理恵が玄関へ出ていく。それに気付く恭子。

○同・玄関（夜）

新田と向かい合う天谷。

新田「よう」

天谷「どうしたんだ？　こんな夜中に」

新田「ああ・・・」

ホールに出てくる理恵。

天谷の後ろに隠れ、新田を見つめる。

ホールに出てくる恭子。

新田「こんばんは」

恭子「こんばんは。理恵も挨拶して」

理恵「・・・こんばんは」

恭子「理恵ちゃん。パパ達は大事なお話しし

てるから、あっちに行きましょうね」

理恵「はい」

理恵を連れ、居間に戻る恭子。

新田「娘さん、大きくなったな」

天谷「ああ。それより、どうしたんだ？」

新田「うん、どうしてもお前に言っておきた

いことがあつてさ」

○同・居間（夜）

座って理恵と話す恭子。

理恵「あの人、パパのお友達なの？」

恭子「あの人はね、パパのヒーローなの」

微笑む恭子。

○同・玄関（夜）

向かい合って話す新田と天谷。

天谷「お前、それって・・・」

新田「まあ、折角だから新しいことに挑戦し

ようと思っでさ」

天谷「・・・それ、革命じゃないか」

新田「革命？　　はは、懐かしいな」

○（フラッシュ）

向かい合って笑う高校生の新田と天谷。

○グランド・外観

○同

キャッチボールをする光枝と翔。

翔の投げたボールが大きく逸れ、転々

と転がっていく。

光枝「こらー。ちゃんと胸に投げろー」

ボールを追いかける光枝。

ボールを拾う新田の手。

立ち止まる光枝。

ボールを持って、光枝を見つめる新田。

新田に気付き、笑顔になる翔。

見つめ合う新田と光枝。

光枝がしゃがみ、キャチャーの様にグ

ローブを構える。

戸惑いながら光枝を見る新田。

グローブを構える光枝。

ひとつ息を吐き、振りかぶる新田。

笑顔で二人の様子を見つめる翔。

笑顔で構える光枝。

光枝に向かってボールを投げる新田。

了